

それぞれの分野で大きな注目を受けるドクター、アーキテクト、デザイナー、プロフェッショナル視点から読み解くガーデンセラピー

寒さもゆるみ、日ごとに春の訪れを感じさせる2017年3月2日、東京・市ヶ谷のTKP市ヶ谷カンファレンスセンターにて「第2回専門セミナー「ガーデンセラピーとは」」が開催された。

プレゼンターは医学博士の塩田清二氏(星薬科大学先端生命科学研究所特任教授/日本ガーデンセラピー協会会長)、建築家の前田圭介

氏(UID一級建築士事務所代表)、そして、ガーデンデザイナーの阿部容子氏(日本ガーデンセラピー協会顧問)の3名。豊富な経験と誰もが認める素晴らしい実績は言うまでもない、まさに、「日本のガーデンセラピー」を先頭に立って牽引するスーパースターたちである。そんなプロフェッショナルたちが一同に介した貴重なセミナーとなった。

高岡理事長のナビゲーションで、塩田博士が「ガーデンセラピー」を医学的エビデンスで解析する

会場では、3人のプレゼンテーションの前に、当協会理事長の高岡伸夫が登場。「健康寿命を延ばす」と題し、現在、協会が推奨しているセラピーメソッドとそのコンセプトを紹介。その流れを受けて、3人のプレゼンターが得意とする分野からガーデンセラピーを語るというプログラムで進行する。

最初のプレゼンターである塩田氏は、医学博士としての視点を披露。ガーデンセラピーを「医学的エビデンス」で解析し、科学的な理論として構築できることを、会場に集まった多くのリスナーにわかりやすく説明した。そして、氏のライフワークであるアロマセラピー研究の成果も組み入れたところで、ガーデンセラピーの医学的なメリットを紹介。

さらに、ガーデンセラピーと高齢化社会との関係にも言及。すなわち、ガーデンセラピーは、本格的な高齢化社会に突入した日本の社会政策として、ひいてはコスト対策として大変有効で、ガーデンセラピーをしっかりと普及させなければ、高齢化社会は支えられないとし、会場のリスナーたちも大いに理解している様子であった。

緑のガーデンで廃れかけた都市や地域を再生させる、それが建築家・前田氏のセラピーメソッド

次に登壇したのは建築家の前田氏。都市あるいは地域という視点で見た「ガーデン(庭)」をプレゼンテーション。「ガーデン」の存在が地域社会を成立させ、そこに暮らす人々の絆を確かなものにしていくことを丁寧に説明。

そこで話された、前田氏自身が取り組んで来た様々な事例の中でも、緑を活用した商店街再



満席のセミナー会場でナビゲーター役の高岡理事長の話に聴き入るリスナーの皆様

生プロジェクト「ストリートガーデン」の話が特に印象的なものであった。商店街一帯とガーデンを融合、廃れかけた商店街を緑で覆うことで、地域に暮らす人々の密接なコミュニケーションが復活。それが間もなく、街そのものを見事に再生したエピソードをご披露いただいた。

さらなる前田氏の建築家としての実績として、「自然と触れ合う知育保育園」を紹介。子供たちが動植物といつでも触れ合える空間を整備することが、すなわち、心の成長を直接的に促している事例を紹介した。

「緑のある景観を意識し、日常のささやかな豊かさを暮らしに採り入れる事が大切だ」と言う建築家として視点に、会場に集まったリスナー全員が頷くという光景も見られた。



プレゼンターとして登壇する塩田清二特任教授

パネルディスカッションに臨むガーデンデザイナー・阿部容子氏(左)、建築家・前田圭介氏(右)



誰よりも「ガーデンセラピー」を実践し実現してきたガーデンデザイナー・阿部氏

続いて、日本で最も著名なガーデンデザイナーとして活躍する阿部氏が登壇。会場から発せられるこの日一番の大きな注目の中、氏のプレゼンテーションがスタートした。

この日の阿部氏のテーマは、「都市・住宅、そして医療施設の中でのガーデン」。「園芸療法」を「ガーデンデザイナー」という立場で如何にプロデュースできるかという興味深い話を展開。「ガーデンセラピー」という意味ではたいへん実践的な内容であった。

集合住宅において、そこに住む人々のコミュニケーションの場としての「ガーデン」を作るだけでなく、さらに、その「ガーデン」にあるべきバリアフリーコンセプトやユニバーサルデザインを積極的に反映させ深く掘り下げて行くというデザイナー視点からの話は、リスナーたちにとって新しい発見の連続であっただろう。

また、阿部氏はリハビリ施設等医療現場で「ガーデン」が如何に有効であるか、ということにも言及。子供からお年寄りまで、あらゆる年代の人々が自らの意志で、自分の身体で動かそうとする仕掛け作りこそ「ガーデンセラピー」の基本的な要件だとする氏の言葉は確固たる説得力を持っていた。